

諏訪湖水質向上に活用へ

SSS5.0 6年目の調査機器設置

諏訪湖の水質調査を行っている産学官連携の団体「Suwa Smart Society」(スワ スマート ソサエティ=SSS) 5.0」は14日、諏訪湖の中心(湖心)とすわつこランド(諏訪市豊田) 沖約800㍎の湖上に調査機器を設置し、今期の観測を始めた。正時ごとの観測結果を集積し、諏訪湖の水質向上に活用する。

SSS5.0は、諏訪市、信州大学諏訪臨湖実験所、諏訪湖漁業協同組合、県内外の企業6社で組織。今期から県

諏訪地方振興局も加わった。IoT(モノのインターネット)や人工知能(AI) 技術を人材不足、高齢化社会など課題解決に役立つツールとして活用し、スマート社会実現を目指している。諏訪湖の水質調査は2018年から行い、今期で6年目。

諏訪臨湖実験所でも水質調査を行っているが、断続的で調査のためにボートを出すなどの手間が掛かる。湖上に調査機器を設置し、データを携帯電話のLTE通信で受信することで湖上や湖中の様子が



SSS5.0が諏訪湖上に設置した水質調査機器

分かる。

調査機器は参加企業が協力して製作。約1㍎四方の機材を浮きの上に組んだいかに

積み込み、高さ約1・5㍎の

風向・風速計が付いている。水深50㍎、3㍎、5㍎の水温

度、水の濁りを表す濁度、ク

ロロフィル(植物性プランクトン) 量を計測する。同日から計測を開始し、結氷前の12

月中旬まで継続する。

同日、諏訪市役所で昨期の観測結果の検証も行い、信州大学教授で諏訪臨湖実験所の宮原裕一所長は「昨期の結果から、春と秋に植物性プランクトンが増えることが分かった。収集データを積み重ね、諏訪湖の水質浄化に寄与したい」と話した。(後藤八十晴)